

Title	編集後記
Sub Title	
Author	宮澤, 浩一 (Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1983
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.56, No.3 (1983. 3) ,p.673- 673
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	内山正熊教授退職記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19830328-0673

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

慶應義塾大学法学部の機関誌「法学研究」は、学部の特任者として、長く学部のために貢献され、御退職になる方々に対して、謝意をこめて、御定年退職の機会に、記念論文集を献呈することを慣行としていた。法学研究編集委員会の編集主任が、その論文集の「編集後記」を担当することも、永年の慣わしとなっており、今回は、私とその役を担うこととなった。今から四分の一世紀ほど前に、ドイツ留学を目前にした私は、内山正熊先生の研究室によれば、御自身の英国留学生活の例をひきながら、細かい御注意を戴いた。その折、イギリスの一〇代の少女から求愛されたという話をうかがった。事の起こりは、年齢を聞かれて、サートイーだと答えたのに、少女はサートイーと聞き違えたことに発したようである。先生の御容姿から、「さもありなん」と納得して退室した日を、昨日のことのように思う。紅顔の美青年であつた内山先生も、昨今では、年齢にふさわしい容姿となられたが、その精神の働らぎと考え方の若さは、全く変わらず、純粹なまでにその御考えを昇華させ、情熱的な口調で、学生にその所説を語りかけて居られるのである。

御退職を記念する論文集は、欧文二編を含む二八編の力作からなっている。塾内者の一四編と同数の一四編が、塾外の研究者、海外

の学者仲間から寄稿されている。この事實は、内山先生の研究態度、その業績が、専門研究者の間で高く評価され、学者として、尊敬を集めて居られることの証であるうと思われる。後輩として、このようにすぐれた先達の存在を誇りたくなると同時に、その先生に去られてしまうことに一抹のさびしさをも禁じえない。

内山正熊教授は、昭和五四年四月から、法学研究編集委員会委員長として、本誌の一層の発展に大きく貢献されたが、編集者の一人として、何よりも感謝申しあげたいことは、御業績目録にみられるように、法学研究に、論文三三編、翻訳一編、資料一編、書評六編を御寄稿下さつた事実である。文字通り、法学研究とともに歩み、法学研究とともに育ち、法学研究を豊かにして下さつたのである。残された各人は、この「慶應義塾の学問の松明」ともいうべき「法学研究」をここに、手渡されたという重みを実感し、ひたむきに学び、仕事に生きようと感じているものと思う。

内山正熊先生が、今後、ますます御壮健であられるよう、その御著作を通じ、後進になお、御激励、御鞭撻あらんことを心から御願ひしたい。

一九八三年一月二六日

法学研究編集委員会

宮澤 浩 一